

## 希望の預託

福岡教育大学附属福岡中学校3年 福田 愛斗

入学からコロナに苦しんだ僕もついに中学三年生となり、僕自身もつい先日、野球部を引退した。よく言われることではあるが、引退してから気づくことは多い。その中でも一番「自分はたくさんの支えで野球が出来た」ということを感じた。僕は、部長をしていたが、一年間やり抜くことが出来たのは、周りの人のおかげ以外の何者でもない。顧問の先生方、最高の仲間、家族や友達、多くの人の支えでここまでやってこることができた。

話は変わるが、現在甲子園が行われている。三年間という時間を費やし、各県百にも及ぶ学校や家族、ベンチに入れなかった仲間の思いを背負い、一発勝負を全力で戦う姿こそがルールが分からない人々をも感動させる。その裏には多方面から支えがある。今大会、選手や監督から「試合が出来たことが嬉しい。皆様に感謝です。」という今まで聞くことのなかった言葉を聞くことが圧倒的に増えた。コロナ禍で試合を行うことすら困難ななか、甲子園を開催できるのは、審判や運営の方々、仲間のために頑張るベンチ外の選手たちなど様々な人に支えられているからだと痛感したのだろう。これらの行動は言ってしまうと、「希望の預託」だと思う。周りの人は頑張ってもらいたいと願いを託すように選手を支え、選手は全力で頑張りを託してくれた恩返しとして見る人に希望や感動、笑顔を与える。

そして、税金は最大規模の「希望の預託」だと思う。税金は法律に基づいて国に預託しているお金だ。税金の使い道といえば、まず自分たちに身近なものである、小中学校で配布される教科書だろう。多くの教科書には、「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。」と記されている。他にも、学校のイスや机、プールや遊具など僕たちが普段過ごしている学校の様々な設備に税金が使われている。これによって僕たちは安心して充実した楽しい学校生活を送ることができる。そして、子どもたちは大人たちが期待をこめ納めた税金によって育ち、大人になる。そして大人になった人たちが昔の大人の期待に応え、豊かな日本を創る。そして、その大人たちが納めた税金で新たな子供が育ち、将来また新たな日本を創る。

このように、税金を通して大人たちは将来の日本を担う子供に「希望の預託」を行う。今は自分が「大人たちの希望を預託」されているので、この期待に応じて、より良い日本をつくり、将来は自分が「子供たちに希望を預託」して、もっと平和で安全なより良い国、日本をつくっていききたい。